

幼稚園

平成 15 年 度

教育研究員研究報告書

幼 稚 園

東京都教職員研修センター

平成15年度

教育研究員名簿

地区名	幼稚園名	氏名
千代田	いずみこども	小林 晶子
港	芝 浦	浅倉 みゆき
文京	第 一	渡邊 典子
墨田	曳 舟	棚田 利枝子
江東	川 南	村田 有美子
品川	二 葉	渡辺 佳子
世田谷	桜 丘	小岩井 聡
杉並	西 荻 北	菊池 百代
北	さくらだ	西澤 尚子
府中	小 柳	渡辺 玲子

世話人

担 当 東京都教職員研修センター指導主事 松 本 純 子

目 次

主題設定の理由	2
研究の内容・方法	
1 研究の概要	2
2 研究主題のとらえ方	
(1)意欲的に遊びに取り組む幼児について	3
(2)教師の指導の評価について	4
3 事例研究	5
事例1 A児を通して指導を評価・反省する	
(1)2年保育4歳児 6月下旬の事例	6
(2)2年保育4歳児 9月研究保育の事例	8
(3)2年保育4歳児 10月上旬の事例	9
事例2 K児を通して指導を評価・反省する	
(1)2年保育5歳児 9月上旬の事例	12
(2)2年保育5歳児 10月中旬の事例	15
教師の指導の評価 4歳児	18
教師の指導の評価 5歳児	21
まとめと今後の課題	
1 意欲的に遊びに取り組む幼児を育てるための教師の指導とその評価について	24
2 今後の課題	24

意欲的に遊びに取り組む幼児を育てる - 教師の指導とその評価 -

主題設定の理由

私たちは、幼児が興味・関心をもって自ら遊びに取り組み、思いや考えを巡らせたり、多様な表現を楽しんだり、友達と考えを出し合ったりして意欲的に遊びに取り組んでほしいと願っている。物事に意欲的に取り組むことは、生涯にわたって必要な力である。しかし、自分で遊びを見つけられない幼児や、初めてする活動になかなか取り組もうとしない幼児の姿が見られる。

幼児が意欲的に遊びに取り組むように変容していくためには、教師が発達の見通しをもった上で幼児の実態をとらえ、「幼児の育ちの評価」と「教師の指導の評価」を適切に行い、指導と評価を繰り返しながら、指導の工夫と改善を積み重ねていく必要がある。

「幼児の育ちの評価」については、平成14年度「東京の教育21」幼稚園部会の研究など先行研究を見ることができる。一方、教師が幅広い視点から適切かつ客観的に自分の指導を振り返り、評価するための「教師の指導の評価」についての研究は少ない。

そこで、本研究では、教師が自分の指導を改善し、意欲的に遊びに取り組む幼児を育成していくための「教師の指導の評価」について探ることとし、研究主題を設定した。

研究の内容・方法

1 研究の概要

《研究の仮説》

- ・ 幼児の実態のとらえ、ねらいの設定、教師の指導が適切に行われるための評価の方法を工夫し、指導の改善をすることで、幼児が意欲的に遊びに取り組むようになるだろう。



《研究の方法》

- ・ 「意欲的に遊びに取り組む」幼児の姿について共通理解する。
- ・ 日常の保育及び研究保育の記録から、指導の改善につながる「幼児の育ちの評価」と「教師の指導の評価」を検討する。
- ・ 保育事例から、指導の幅を広げ、改善につなげるための教師の指導の評価項目を導き出す。



《研究のまとめ》

- ・ 意欲的に遊びに取り組む幼児を育成するための教師の指導の在り方と指導の改善につながる評価について具体的な方法をまとめる。

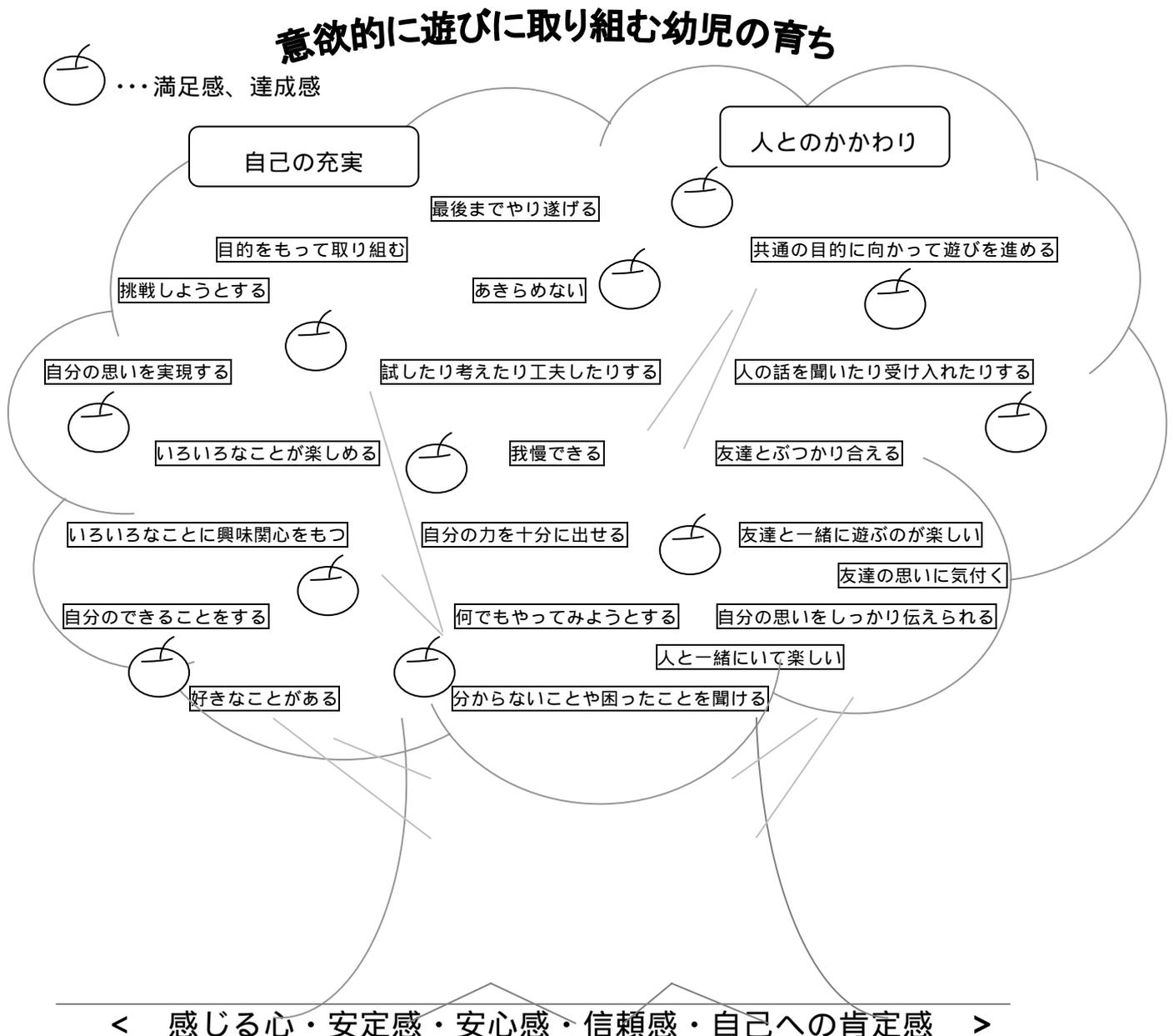
2 研究主題のとらえ方

(1) 意欲的に遊びに取り組む幼児について

私たちは、意欲的に遊びに取り組む様々な幼児の姿を出し合った。その中で、意欲的に遊びに取り組む幼児を育てるためには「自己の充実」と「人とのかかわり」が大切であることが分かった。

<意欲的な幼児が育つ基盤> 幼稚園という集団生活の中で、様々な体験を通して気持ちが動く(感じる心がある)こと、場や物、人などへの安定感・安心感・信頼感があること、自分への肯定感があることが意欲的に遊びに取り組むための基盤になる。

意欲的に遊びに取り組む幼児の姿 「自己の充実」と「人とのかかわり」という両面を育てることで、幼児は日々の遊びの中で満足感や達成感を得ることができ、その積み重ねが意欲的に遊びに取り組む幼児を育てることにつながると考える。



(2) 教師の指導の評価について

私たちは、教師が自らの保育を客観的に評価し展開していくために、教師の指導の評価項目を作成し、下図のように活用することが有効であると考えた。

教師の指導の評価項目は、教師が援助の手だてを考える際のヒントとして、また、自らの指導の評価の後、新たな援助の手だてを考える際に活用する。こうした実践指導と評価を繰り返し、重ねていくことで、幼児が変容するととらえた。



3 事例研究

研究主題に迫るため、次のような手順で事例研究を進め、仮説の検証を行った。

- (1) 各研究員が持ち寄った意欲的になってほしい幼児の保育実践記録や、研究保育の観察対象児を中心とした観察記録を、下記のような形式で分析・考察し、教師の指導を評価する。

教師のとらえた対象児の姿

教師の願い

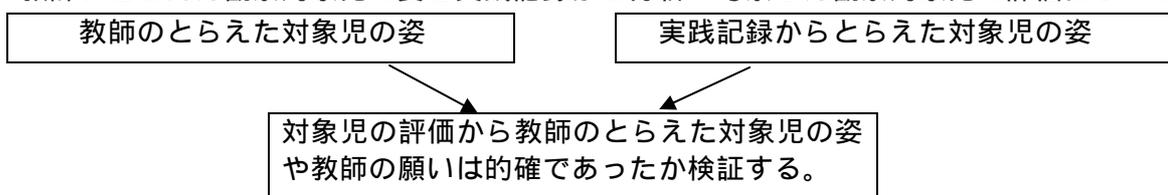
教師が意図している具体的な指導

実践記録

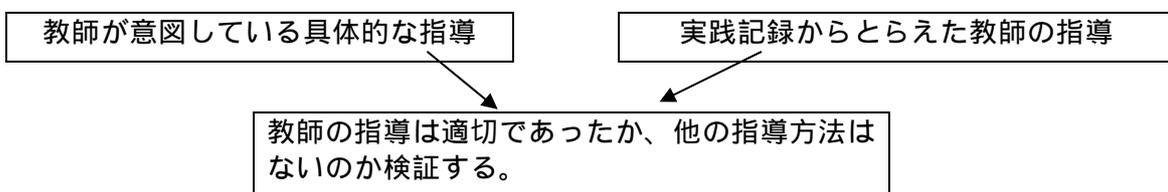
幼児の動き	教師の言動	対象児の評価
幼児の実際の言動を記録する。	教師の言動を記録し、上記の具体的な指導に当てはまるものには、 、 、 等の記号をつける。当てはまらないものには、*印をつける。	「東京の教育21」の評価項目を参考に、幼児の姿を教育要領の内容で評価し達成しているものには印、指導が必要なものには印をつける。<例：表現(1)>

< 教師の指導の評価 >

教師のとらえた観察対象児の姿と実践記録から分析・考察した観察対象児の評価について



教師が意図していた具体的な指導と実践記録から分析・考察した教師の言動について



観察対象児が意欲的に遊びに取り組むための今後の指導について

- (2) 上記のような事例を多数持ち寄り、意欲的に遊びに取り組む幼児を育てるために、幼児の姿や教師の願いから具体的な教師の指導について分析・考察し、**教師の指導の評価**について次のように表にまとめた。(p.18~p.23の表参照)

幼児の姿	指導の方向	教師の指導の評価項目	変容した幼児の姿
事例から抽出した同じような幼児の姿	幼児の姿や教師の願いから考えた指導の方向	事例から抽出した具体的な指導の手だて	指導したことから変容した幼児の姿(意欲的な姿)

p.18~p.23の**教師の指導の評価**の表については、4月から10月に記録した事例から抽出したもので、どこの幼稚園でも共通に当てはまる標準的なものではない。

事例1 A児を通して指導を評価・反省する

(1) 2年保育4歳児6月下旬の事例

教師のとらえたA児の姿

- ・他児の動きを見ていることが多く、自分からものや人(周りにいる幼児)にかかわることがほとんどない。
- ・教師や幼稚園職員などに自分の知っているテレビのヒーローについて話すことで満足している。時々、一人でヒーローになったつもり動きをしたり言葉を話したりして楽しんでいる。



教師の願い

- ・遊びを展開できる自分の場もてるようになってほしい。
- ・言葉だけでつもりになっているのではなく、場や遊びに必要な物を作ったり操作したりしながら遊ぶ楽しさを感じてほしい。

具体的な指導 自分の場もてるようにしていく。

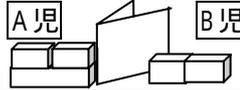
身に付けるもの、持つものを作ることができるようにしていく。

A児の遊びのイメージを具体化していく。

実践記録

*印は上記の具体的な指導に当てはまらないもの

月日	幼児の動き	教師の言動	A児の評価
6/20 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの場所(廊下のベンチ)に座る。 ・「作戦をたてなくっちゃいけないだよ」 ・教師の絵にクレパスで色を塗る。 ・「アバレンジャーにはプレスが必要なんだよ」 ・クレパスで描く。 ・ハサミを持って来てに切り、教師の作ったにセロテープで貼って腕に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチの前に段ボールのを置く。* ・「アバレンジャーが敵をやっつけるにはどうすればいいの？」 ・画用紙、セロテープを持って来て、内側に画用紙を貼る。 ・A児と教師のクレパスを持って来て絵を描く。 ・「描いてみれば」と画用紙を差し出す。* ・「ハサミを持ってくるといいんじゃない」* ・プレスレットバンドを作る。 ・同じものを作り一緒に動く。* 	<p>健康(1)○ 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。</p> <p>言葉(2)○ したこと、見たこと、感じたことなどを自分なりに言葉で表現する。</p> <p>表現(7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。</p> <p>表現(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりして遊んだりする。</p>

6/23 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ベンチにA児、B児が座る。 B児「仲間じゃないんだよ」 A児うなづく。 しばらくするとB児「Aくと仲間になったんだ」と教師に言い、A児と話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ベンチの前に  を置き「積み木もいる?」と積み木を運ぶ。 「AちゃんとBちゃんは仲間なの?」 * 「そうなの」 「Bちゃんの方にも積み木持って来たよ」と積み木を置く。 	人間関係(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
6/25 (水)	<ul style="list-style-type: none"> B児「あ、そうか」と積み木を運んで場を作り、A児を待つ。 A児「おはよう」と声をかけ合う。B児「Aくん、基地ができたからね」と言うと、A児は笑顔。 「お待たせ」と積み木の場に入る。 C児がブロックを持って仲間に加わると、A児B児もブロックを組む。 ブロックを引き出しに片付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ベンチの前に  を置き、B児に「昨日何で基地作るって言ってた? 積み木だよね」 「いいのができたね」 ブロックは引き出しに片付けさせる。* 	言葉(6)○ 親しみをもって日常のあいさつをする。 人間関係(3)○ 自分でできることは自分でする。 表現(7) 表現(8)

< 教師の指導と評価 >

教師のとらえたA児の姿と実践記録から分析・考察したA児の評価について

《教師のとらえた姿》

事前では、ヒーローになったつもりで動きと言葉を一人で楽しんでいる、ととらえていた。実践のように教師が個別にかかわることで、プレスを作ったり遊びを自分から始めたりすることができる。しかし、教師の個別のかかわりがなければ友達の動きを見ていることが多い。

《実際の姿》

・ヒーローの動きはしているが、心からなりきってはいない。
・コミュニケーションの手段として、ヒーローの動きをして見せたり、動きを解説したりしている。
つもりになって楽しんでいる、とは言えない。

《評価》

表現(8)自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じたりして遊ぶ。について、評価すると一見達成されているかのように見える。しかし、以下の視点から見直してみる必要がある。
・気持ちを揺り動かしながら遊んでいるのだろうか。
・楽しさを味わっているのだろうか。

教師のとらえた姿と実際の姿の違いから、つもりになった動きには気持ちが伴われていることが大切だと考える。そこで、教師の願いを次のように見直した。

《教師の願い》

自分でなりきって動く楽しさを知ってほしい。

教師が意図していた具体的な指導と実践記録から分析・考察した教師の言動について

《事前に考えていた具体的な指導》

自分の場をもてるようにしていく。
身に付けるもの、持つものを作ることができるようにしていく。
A児の遊びのイメージを具体化していく。

+

《幼児の動きから判断して行った指導》

- * つもりになって遊ぶための場やものを作り、なりきって遊べるようにする。
- * 同じ場に友達がいることや同じような動きをする楽しさに気付かせる。
- * 楽しかった思いが、次回へ(翌日)につながるようにする。



教師が指導を繰り返すことで、A児は遊びの場をもてるようになった。また、教師が個別に意図的な働き掛けをすることによってヒーローになるために必要なものを作って身に付けるなどの指導の成果があった。また、なりきったり友達と遊んだりする楽しさを味わうためには の指導が有効であった。教師は、こうした具体的な指導を、日頃から意識化しておく必要があった。

意欲的に遊びに取り組むための今後の指導について

- ・何かのつもりになって、自分の思いを出しながら遊ぶ経験を重ねるための指導...
- ・友達と同じ遊具や場で遊ぶ楽しさを味わうための指導...

(2) 2年保育4歳児9月研究保育の事例

教師のとらえたA児の姿

- ・自分から製作したり砂場で遊んだりするようになってきている。また、イメージしたものを紙などで作り、身に付けたり持ったりしてなりきって遊ぶようにもなっている。
- ・ヒーローになって同じ遊具や場で遊ぶ友達とのかかわりが楽しくなっている。
- ・周りの動きや遊びのイメージに気付かず、友達と動きや会話がすれ違うことがある。

研究保育でのA児の遊びの姿

幼児の動き	A児の評価
<p>・B児とD児の遊んでいる積み木の場に来たA児に、D児が「3人で遊ぼう」と声を掛け仲間になる。</p> <p>・D児が「高速道路を作ろう」と積み木で橋のように構成し、B児は細長い色画用紙に色を塗って道を作り出す。</p> <p>・A児は「アバレンジャーの前にやっていたのは...」とテレビの話を、道を作っているB児に話し掛けるが、B児はすぐに行ってしまう。</p> <p>・A児も棚から小さな紙を2枚取り出してマジックで模様を描き、道路の柱となる積み木に1枚ずつ貼る。</p> <p>・B児とD児は「できたの」「もうすぐ」と言いながら高速道路として積み木に色画用紙をつなげてから、D児は空き箱で車を作る。E児が加わりB児と一緒に「町にしよう」と色画用紙を折ったものを道の周りに並べていく。</p>	<p>健康(1)○</p> <p>言葉(4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>表現(7)○</p>

- ・A児は製作コーナーでカブトムシの絵を描き、ハサミで切ってできあがるとB児に渡そうとするが、道路にあるものを蹴ってしまい「下見てやって、って言っただろう」とB児に怒られてその場に座り込む。
- ・B児、D児、E児は車を走らせたり道をつなげたりしている。
- ・A児は製作コーナーにカブトムシの絵を持って行き、座り込む。
- ・D児に「Aくん、これ町」と声を掛けられると、カブトムシを持ってD児の所へ行くがD児に「いいよ」と言われる。B児に渡そうとするが、「何？」と何度も聞かれる。A児はそれに答えず、B児の前に置き、走り去る。

人間関係(4)
友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。

人間関係(5)
自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。

人間関係(4) (5)への指導
を教師の指導の評価項目
で考えてみよう!



A児の遊びの姿から教師の指導の評価項目で指導を考える

	幼児の姿	指導の方向	教師の指導の評価項目	変容した幼児の姿
友達	・友達のしていることが分からず、違う動きをする。	・友達の思いに気付く。 ・友達の中で自分の思いを表す。	・他児の遊びのイメージを知らせる。 ・自分なりのイメージが相手に伝わるようにする。	・友達がしていることに関心をもち、自分もしてみようとする。

この指導を
してみよう!

(3) 2年保育 4歳児 10月上旬の事例

教師の願い

- ・自分から興味をもったことをする中で、体や心を動かして遊ぶことを楽しんでほしい。
- ・自分なりの動きをすることや同じ場に友達がいる楽しさを感じてほしい。

具体的な指導 興味をもって遊び始めたことを受け止め、認める。

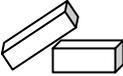
遊びのイメージを具体化していく。

他児の遊びのイメージを知らせる。

自分なりのイメージや思いが相手に伝わるようにする。

実践記録

幼児の動き	教師の言動	A児の評価
・製作コーナーでハリケンジャーのプレス を紙で作って腕に付け、トリプリカジェット の剣をカップと紙で作る。		表現(7)○ かいたり、つくったりする ことを楽しみ、遊びに 使ったり、飾ったりする。

幼児の動き	教師の言動	A 児の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ B 児、D 児が積み木でロケットの基地を作り始める。F 児が、教師と一緒にロケットを作り「入れて」と加わる。 ・ G 児が自分の場を 3 人の場の隣に作る。 ・ しばらくその様子を見てから A 児も積み木を運び自分の場を作ろうとする。 ・ A 児は板積み木を 3 人の場にくっつけて置く。 ・ A 児「合体しようよ」 ・ B 児「いいよ、どっちも行けることにしよう」 ・ 「ここは剣を置く所にしよう」などつぶやきながら積み木を並べていく。 ・ 場ができると積み木に紙を貼り、線を描き始めると B 児が見に来る。「こっち側は電車で、こっち側が飛ぶ方」と  B 児に言いながら描く。 ・ 垂直に立てた積み木に貼っているため、B 児が紙に手を載せ「これじゃ上れないよ」と言う。 ・ 積み木を 1 つ持って来て紙の貼ってある積み木を傾けて置く。  ・ B 児「うん、いいね」 ・ F 児、ロケットを持ち斜面を上らせる。A 児は笑顔で見ている。 ・ A 児が自分の“剣を置く場所”に G 児の作った剣を持って行くと、G 児が「何で持って行くだよ、俺のなんだぞ」と取り返しに来る。A 児はその動きを見ている。 ・ 「剣を置く所はここなんだよ」と A 児が言うが、G 児は「やだよ」と自分の場の中に戻す。A 児はその様子を見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A 児が積み木を並べようとしている場にあったテーブルの向きを変えて A 児の場を確保する。 ・ A 児には「合体したいの?」と思いを確かめ「合体するよ、と言うんだよ」と知らせる。B 児たちには「A ちゃん合体したいんだって」と、A 児の思いを伝える。 ・ 「それはいい考えね」と言う。 ・ 「こっち側は電車が走るんだ」と A 児の言葉を繰り返す。 ・ 「そうね、こうなれば上れるかもしれないけれどね」と積み木を傾けてみせる。 ・ 「これならいいわね」 ・ 「A ちゃん、ここを剣の置き場にしようって言うてみたら」 ・ 「G ちゃん、自分の所に置いておきたいんだって」 	<p>環境(7)○ 身近な物や遊具に興味をもってかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</p> <p>言葉(4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>環境(7)○</p> <p>人間関係(5) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。</p> <p>人間関係(4) 友達と積極的にかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。</p>



< 教師の指導と評価 >

教師のとらえたA児の姿と実践記録から分析・考察したA児の評価について

《教師のとらえた姿》

《評価》

事前にとらえていたように、周りの動きや遊びのイメージに気付かず、友達と動きや会話がすれ違っている。教師が、遊びのイメージをA児に伝えたり、A児の思いを周りに知らせたりすることで、つながりをもちながら遊べるようになる。



人間関係(4)友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
人間関係(5)自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
言葉(4)人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
について、教師の指導がなければ達成されにくいことが分かった。



教師のとらえた姿のように、周りの動きや遊びのイメージに気付きにくいために友達と動きや会話がすれ違ってしまい、同じ場に友達がいても楽しさを共に感じる事ができないでいる。そこで、友達と遊ぶ楽しさを味わえるようになるためには、人とのかかわりについての教師の指導の必要性が明確になった。

教師が意図していた具体的な指導と実践記録から分析・考察した教師の言動について

《事前に考えていた具体的な指導》と《実際に行っている指導》とが一致した。

興味をもって遊び始めたことを受け止め、認める。
遊びのイメージを具体化していく。
他児の遊びのイメージを知らせる。
友達との間でA児のイメージや思いが伝わるように仲立ちをする。



教師の指導の評価項目を取り入れた指導は、A児に他児の遊びのイメージを知らせ、A児のイメージや思いが友達に伝わるために、有効な指導であった。

今後もA児が友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようになるためには、互いのイメージを伝え合う指導が必要である。

意欲的に遊びに取り組むための今後の指導について

- ・ 友達の動きを意識しながら自分の思いを出して遊ぶための指導...
- ・ 自分の動きや思いを相手が受け止めてくれるうれしさを感じるための指導...

事例2 K児を通して指導を評価・反省する

(1) 2年保育5歳児9月上旬の事例

教師のとらえたK児の姿

- ・仲の良い友達と過ごすことが多く、他の友達とかかわることが少ない。
- ・体を動かす遊びは、教師が誘えば仲間に入ることがある。
- ・うまくいかないことがあると、自分で気持ちの切り替えをすることが難しいが、教師の援助があれば立て直せる。

教師の願い

- ・いろいろな友達とのかかわりを楽しんでほしい。
- ・体を動かして遊ぶ面白さを味わってほしい。
- ・うまくいかない時でも、自分なりに頑張る気持ちをもってほしい。

具体的な指導

いろいろな友達とかかわるようにするため、友達の動きを知らせ、きっかけをつくる。

運動遊びに参加するように誘う。

体を動かして遊ぶ楽しさを味わい、自分から取り組む気持ちをもてるよう認める。

友達と気持ちが通い合う喜びを感じ取れるよう言葉を掛けたり、共感したりする。

うまくいかない時でも気持ちを立て直せるように、また頑張ればよいことを知らせる。

あきらめず自分なりに挑戦する気持ちをもてるよう励ます。

自分なりに頑張った満足感を味わえるようにする。

実践記録

幼児の動き(K児を中心に)	教師の言動	K児の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ L児やM児と一緒に3人でO児たちの跳び箱遊びを見ている。 ・ L児とM児に誘われて迷う。 ・ 友達と声をそろえて「入れて」と言う。 ・ O児たちが跳びながらおどける姿を見て笑うが、自分からは跳ばない。 ・ 「本当の跳び箱だ」と喜ぶが、O児たちが喜んで跳び始めても、まだ跳ばない。 ・ N児が紙と鉛筆を持って近くに座る。 ・ P児が「二人組みになって対戦しようよ。Nちゃん ×書いてよ」と言う。 ・ N児は表を作る。P児たちは2人組になり跳び始める。 ・ 今まで見ていたK児も、好きなM児とペアを組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「楽しそうよ。一緒にやってみたら?」 ・ 倉庫から跳び箱を出し「こんなものあるけれど使うかなあ?」と言って設定する。 * ・ 「あれ得点するの?」と言う。N児の返事はないが、友達が見えるよう机の向きを変える。「ほらよく見えるでしょ」と言う。 * ・ 「 や×を付けるの?おもしろそうねえ」 * 	<p>健康(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。</p> <p>環境(7) 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。</p> <p>健康(1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の番になる。思い切り助走するが、跳び越せず尻をぶつける。とたんになだれて列に戻り泣き始める。 ・P児たちは困った表情でじっとK児を見ている。 ・O児たちが「跳べないから・・・xだよなあ」と困って小さくつぶやいたのを聞いて、K児の泣き声が大きくなる。 ・顔をゆがめて返事をしない。 ・N児が「Kちゃんは頑張るから...そうだ！花丸付けるね...もう付けたからやってみなよ」と言う。 ・表情が明るくなり「うん」と言う。 ・再度、挑戦する。突然、成功して跳べる。呆気に取られたような表情をする。 ・列に戻る。ペアのM児やN児に「よかったね」と言われて笑顔になる。 ・以後、楽しそうに遊び続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コーチ、選手が泣いているよ。どうしよう」 * ・「あれ、これから頑張る人にチャンス無いの？ねえKちゃん、また頑張るよね」 ・「Kちゃん、花丸だって!よかったね。頑張れ!」 ・「やった - 跳べた。頑張ったね。Nちゃんが花丸付けて応援してくれたからよ。よかったね」 ・「みんなと跳び箱するのが楽しいでしょ。また頑張ってるね。応援してるよ!」 	<p>人間関係(2) 自分で考え、自分で行動する。</p> <p>健康(1)</p> <p>人間関係(2)</p> <p>健康(2)</p>
---	---	--

< 教師の指導と評価 >

教師のとらえたK児の姿と実践記録から分析・考察したK児の評価について

《教師のとらえた姿》

- ・仲の良い友達以外とは、かかわることが少ない。
- ・したことがない運動遊びは、教師が誘わないと入らない。
- ・自分では気持ちの切り替えが難しいが、教師の援助があれば立て直せる。

《実際の姿》

- ・仲の良い友達と一緒にあれば、他の友達とかかわる姿が見られる。
- ・仲の良い友達と一緒にあれば、運動遊びにも取り組む。
- ・学級の友達の励ましで、気持ちを立て直すことができる。

《評価》

健康(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
人間関係(2)自分で考え、自分で行動する。
上記の2項目について、教師は、当初指導が必要()ととらえた。しかし、その後のK児の様子を追うとねらいの内容を達成している()に変容している姿が見られた。このことから、以下の視点から見直してみる必要がある。

- ・K児は、体を動かして遊ぶ楽しさを感じ始めているのではないか。
- ・自分独りではまだ難しいが、うまくいかない時にも頑張ろうとする気持ちが芽生えてきているのではないか。

教師のとらえた姿と実際の姿の違いから、K児に対する指導のねらいを次のように見直した。

《教師の願い》

自分から体を動かして遊びに取り組み、うまくいかないことがあっても自分なりに頑張る気持ちをもってほしい。

教師が意図していた具体的な指導と実践記録から分析・考察した教師の言動について

《事前に考えていた具体的な指導》

いろいろな友達とかかわれるようにするため、きっかけをつくる。
運動遊びに参加するように誘う。
体を動かして遊ぶ楽しさを味わい、自分から取り組む気持ちをもてるよう認める。
友達と気持ちが通い合う喜びを感じ取れるよう言葉を掛けたり、共感したりする。
うまくいかない時でも気持ちを立て直せるよう、また頑張ればよいことを知らせる。
あきらめず自分なりに挑戦する気持ちをもてるよう励ます。
自分なりに頑張った満足感を味わえるようにする。

《幼児の動きから判断して行った指導》

- * 魅力的な物を提示し、幼児の遊びの意欲を高める。
- * 幼児の発想を受け止め、周囲の幼児に伝えて楽しい雰囲気をつくる。
- * 友達が困っている様子を言葉に出して伝え、周囲の幼児が働きかけるきっかけをつくる。

<効果がなかったもの>

教師が「頑張れ」と言うだけでは、K児は気持ちを立て直せなかった。

K児は、学級の友達に認められたり励まされたりすることで運動遊びに参加し、自分なりに頑張ろうという気持ちをもつようになってきた。そこで教師は、
の方法でK児を直接援助することに加えて、
のように学級の他の幼児への働き掛けを通してK児を育てることを意識して指導することが大切である。



K児が意欲的に遊びに取り組むための今後の指導について

- ・いろいろな友達とかかわりながら体を動かして遊び、楽しむ経験を重ねるための援助
.....
- ・友達に認められる嬉しさを感じ、頑張ろうという気持ちをもつための援助・・・

(2) 2年保育5歳児10月中旬の事例

教師のとらえたK児の姿

- ・気の合う友達以外とも遊ぶ姿が見られるようになってきている。
- ・いろいろな遊びに参加するようになったが、自分から体を動かして遊ぶことは少ない。
- ・学級の皆でするゲームや運動遊びに楽しそうに参加するが、まだ勝敗にこだわり、気持ちを切り替えにくい面が見られる。

教師の願い

- ・いろいろな友達とかかわり、一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしい。
- ・体を動かして遊ぶ面白さを味わってほしい。
- ・うまくいかない時でも途中であきらめずに、やり遂げようとする気持ちをもってほしい。

K児の遊びの姿から教師の指導の評価項目で指導を考える

	幼児の姿	指導の方向	教師の指導の評価項目	変容した幼児の姿
友 達	・気の合う友達と過ごすことが多く、友達関係が広がりにくい。	・いろいろな友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。	・グループで行う活動や集団遊びを取り入れる。	・友達や教師に受け入れられる中で自分を出す。(健・1)
	・できそうにないと思うことを避けてしまう。	・自分から取り組もうとする。	・友達と一緒に遊んだことを意識できるようにする。 ・自分なりに頑張ったことを認める。	・友達と一緒にいろいろな遊びを楽しむ中で、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。(健・2)
	・うまくいかなかったり負けたりすると、気持ちを立て直すのに時間がかかる。	・うまくいかないことがあっても、自分なりに行動できるようになる。	・自分なりに頑張ったことを認める。 ・友達の励ましを伝える。 ・友達が頑張っている姿を伝えたり認めたりする。	・友達と一緒にであれば途中でくじげずにやり遂げようとする。(人・7)

この指導を
してみよう!

具体的な指導

いろいろな友達と遊びを通してかかわり合えるよう、集団で行う運動遊びを取り入れる。

興味をもったことに自分からかかわり、動けたことを認める。

教師や友達が認めたり励ましたりして、頑張ろうとする気持ちをもてるようにする。

あきらめずに自分なりに頑張ったことを認める。

実践記録

幼児の動き(K児の動きを中心に)	教師の言動	K児の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・校庭で7~8人の幼児がリレーの準備をする。笛を借りて、幼児が自分たちで進める。 ・N児と教師の会話の様子を見ている。自分から「入れて」と言い、リレーに参加する。 ・「先生、変なの!」と教師を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「リレーするの?楽しそう!後で先生も行っちゃおうかなあ・・・はい、笛」と渡す。 * ・学年のほとんどの幼児が参加しているの、様子を見に行き、「KちゃんもMちゃんもみんな、頑張ってるね!ふれ~ふれ~!みんな!」と言う。 * 	<p>健康(3) 進んで戸外で遊ぶ。</p> <p>人間関係(1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</p>

幼児の動き(K児の動きを中心に)	教師の言動	K児の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ N児が「そーだよ!だれ、応援してるの!先生は!」と言うのを見て笑う。 ・ 自分の番になり笑顔でリングバトンを受け取り、走る。 ・ 半周走った所でP児に追い越される。急に泣いてしゃがみこむ。 ・ 後の幼児にも越され、地面を叩き泣く。 ・ M児や数人の友達も教師と一緒に大きな声で「Kちゃん、頑張れー」と応援する。 ・ 立ち上がり、走り始める。泣きやんだが泣きそうな顔をしている。 ・ バトンゾーンで次の友達にバトンを渡し列に戻り、うなだれる。 ・ 数人の友達とM児が「どうして泣いちゃったの?悔しかったの?」と尋ねる。 ・ 「うん」と答え、また涙が出る。 ・ 「うん」とうなずく。 ・ 「私、足、速くなってきたから...」 ・ M児が「今度は一緒に走ろうね」と言う。 ・ 「うん」と笑顔に戻る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ガンバレ~!」と走る幼児たちを応援する。 ・ K児の側には行かず、他の幼児がいる所から「Kちゃん頑張れ!走って」と言う。 ・ 他の幼児と一緒に様子を見守る。 ・ 「悔しいけれど頑張ったね。あきらめなかったKちゃん、偉いと思うよ」と言う。 ・ 「どうしてまた走れたの」と尋ねる。 * ・ 「そうか、それでまた頑張ろうって思ったのね。すごいな」 ・ 「順番よ。行ってらっしゃい」 	<p>K児の評価</p> <p>人間関係(2) 自分で考え、自分で行動する。</p> <p>人間関係(7) 友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。</p> <p>健康(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。</p>

<教師の指導と評価>

教師のとらえたK児の姿と実践記録から分析・考察したK児の評価について

《教師のとらえた姿》

- ・ 体を動かす遊びの楽しさがわかってきて、興味をもち始めている。
- ・ 学級や学年の友達とも遊ぶ姿が見られる。
- ・ 大勢で行う活動にも意欲が感じられるが、まだ負けを気にする。

《実際の姿》

- ・ 友達とのかかわりが支えになり、運動遊びに参加している。
- ・ 大勢の友達と一緒に活動する楽しさを感じている。
- ・ 意欲はあるが負けると投げ出そうとすることがある。
- ・ 友達や教師の支えがあれば自分なりに頑張るようになってきている。

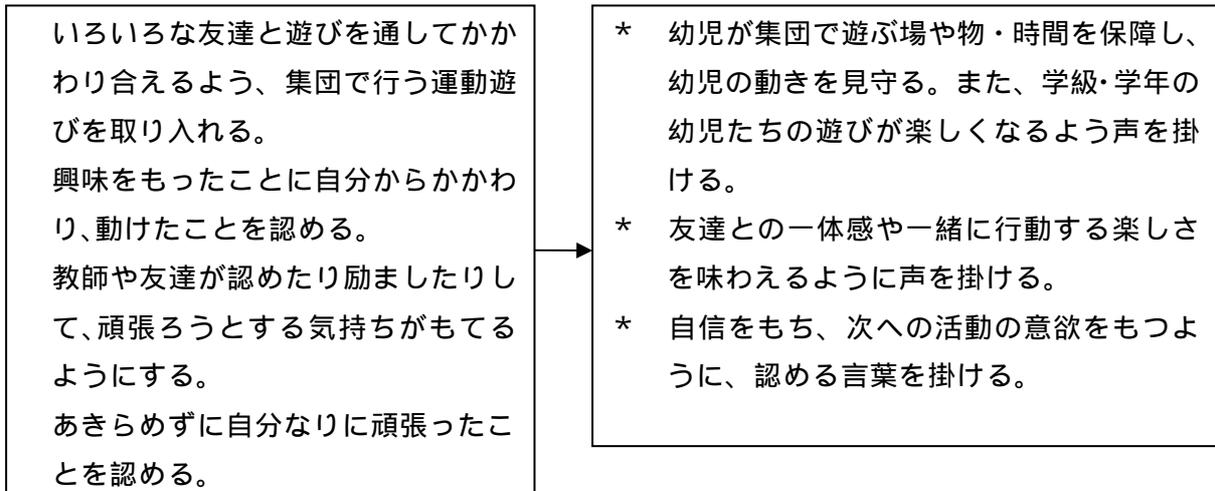
《評価》

人間関係(2)自分で考え、自分で行動する。
人間関係(7)友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
負けた悔しさを乗り越えることは自分だけの力ではまだ困難だが、友達と一緒になら
できる。遊びを続けようとする気持ちをもち、頑張るようになってきている。



友達関係に着目し、教師や友達の認めや励ましや支えにしてK児の育ちを促す指導は、K児の実態に合っていた。

教師が意図していた具体的な指導と実践記録から分析・考察した教師の言動について
《事前に考えていた具体的な指導》 《幼児の動きから判断して行った指導》



教師がとらえたK児の姿と実際の姿とが一致するようになり、その結果、教師が事前に考えていた指導と実際に行っている指導とが重なり合う部分が多くなった。

また、K児は、友達とのかかわりを通して、教師が事前に予想していた以上に変容してきた。そのため、より友達関係を深めていく方向の指導（上記、
、
）を幼児の動きから判断して行った。



教師の指導の評価項目を取り入れた指導は、K児が体を動かして遊ぶことに意欲をもつことや、うまくいかないことがあっても途中であきらめずにやり遂げるようになることに有効な指導であった。

しかし、5歳児の場合、個の育ちのプロセスに視点を当てて指導の方針を考えることに加え、まもなく小学校に就学することを視野に入れ、5歳児として身に付けてほしいことを考えるという視点を併せもつことが大切である。

K児についても、変容してきた姿を認めながら、様々な友達と多様な経験をするを通して自分の思いを出し力を発揮していけるようになることに向けて、引き続き以下の指導が必要である。

意欲的に遊びに取り組むための今後の指導について

- ・友達と一緒に体を動かして遊び、一緒に行動する楽しさを味わう経験を重ねていくための指導
...
- ・自分の思いを友達に伝え、自信をもって行動できるようにするための指導...

*この表は、4月から10月の事例から抽出したもので、どこの幼稚園でも共通に当てはまる標準的なものではない。

*教師の指導の評価項目は、指導の改善を図るために、指導の方向に沿った具体的な手だてを例示したものである。

教師の指導の評価

4歳児

	幼児の姿	指導の方向	教師の指導の評価項目	変容した幼児の姿
生活	<p>自分がしたことのないことやできないと思っていることは、教師に依存しやすい。</p> <p>初めてのことや分からないことがあると不安になり、泣くことが多い。</p> <p>所持品の始末や食事などの時に途中で他のことに気持ちが向いてしまい、最後までするのに時間がかかる。</p> <p>遊んだ遊具や場をそのままにして次の遊びをする。</p> <p>片付けの時間になっても遊んでいる。</p> <p>教師の手伝いをしたが、けんかになる。</p>	<p>自分でできることは、自分でしようとする。</p> <p>自分なりに考えて行動しようとする。</p> <p>物を大切にし、丁寧にかかわる気持ちをもつ。</p> <p>短時間でも集中して物事に取り組む。</p> <p>片付け方が分かる。</p> <p>片付けると気持ちがいいと感じる。</p> <p>生活の流れが分かる。</p> <p>生活に必要なことを自分たちでする。</p> <p>順番ですることみんなができることが分かる。</p>	<p>実際にして見せる。</p> <p>幼児が自分でできそうなものを用意する。</p> <p>幼児が自分でできたことを認めたり、褒めたりする。</p> <p>様子を見守る。</p> <p>経験したことを思い出させる。</p> <p>分からないことを聞ける、という姿を認める。</p> <p>一つ一つの行動を見届ける。</p> <p>自分から行動するようになるまで繰り返し指導する。</p> <p>いろいろなものの置き場が分かるように表示をする。</p> <p>みんなの役に立っていることを伝える。</p> <p>順番が分かるような表示をする。</p>	<p>安心感をもってしたいことに自分から取り組む。(人・3)</p> <p>自分からもう一度取り組む。(人・3)</p> <p>ハサミ、セロハンテープ、のりなどの身近な用具の使い方を知る。(環・2)</p> <p>自分からすることが分かって所持品の始末をする。(人・3)</p> <p>困ったこと、分からないことを自分から教師に聞く。(人・2)</p> <p>所持品の始末の仕方、片付け方などが分かって自分からするようになる。(健・5、6、7)</p> <p>片付けた後の気持ちよさを感じるようになる。(健・7)</p> <p>自分の番を楽しみに待つ。(健・7)</p>
遊び	<p>教師と一緒に遊ぶが、自分から遊ぼうとすることが少ない。</p>	<p>安心して遊びに取り組む。</p>	<p>遊び方を知らせる。</p> <p>遊びのイメージを具体化する。</p> <p>幼児と一緒に動く。</p>	<p>身近な物や遊具に自分からかわって遊ぼうとする。(環・7)</p>

<p>遊びの経験が少なく、遊び方が分からない。 自分の思いを動きに出すことが少ない。 特定の遊び以外には、興味ももちにくい。 新しいことに対してなかなか自分からかかわろうとしない。 見立てたり、つもりになって遊んだりすることに抵抗感がある。</p> <p>自分なりの思いはあるが、必要な技能が身に付いていないために自分で進めていくことができない。</p> <p>みんなでする遊びを一緒に楽しめない。 遊びのルールが分からなかったり、守れなかったりする。</p>	<p>好きな遊びや場がある。 好きな遊びを楽しむ。 心や体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。 いろいろなことに関心をもつ。 初めてのことでもしてみようとする。</p> <p>見立てたりつもりになって遊んだりする楽しさを感じる。</p> <p>自分の思いを自分なりに実現しようとする。 繰り返し取り組む中で必要な技能を身に付ける。</p> <p>ルールを守ると楽しいと感じる。</p>	<p>興味もてるようなものを用意する。 幼児のしていることを真似する。 イメージを明確化する。 必要な言葉を知らせる。 必要な用具を用意する。 必要な物を自分で使えるように知らせる(言葉、表示、見えるように置く、見せる) 遊びに使ったものを残しておくことで翌日につながるようにする。 遊びの場を作っておく。 実際にやってみせる(場作り) 使うものを作って見せる。 幼児の実現したいことを手助けする。 適切な用具、道具の使い方を知らせる。 自分で行動するよう促す。 経験したことを思い出させる。 遊びのルールを知らせる。 幼児のしていることを褒めたり認めたりする。 友達のしていることを他の幼児に知らせる。</p>	<p>いろいろなものに関心を持ち、自分なりにしてみる。(表・5) 園生活に必要な言葉があることや意味を知る。(言・5) 自分の思いを表情やしぐさ、簡単な言葉で伝えようとする。 (人・5) 自分から遊びにかかわろうとする。(健・4) 友達がしていることに関心を持ち、自分も同じようにしてみる。 (人・4) 何かのつもりになって遊ぶ。 (表・8) 自分がしたいことを相手に伝えようとする。(言・3) 身近な遊具、用具の適切な使い方を知り、自分で使う。(環・2) 遊びの中のルールが分かって友達と一緒に遊びを楽しむ。 (人・10) ルールのある遊びで自分の力を出すことを楽しむ。(健・4)</p>
--	---	--	---

	幼児の姿	指導の方向	教師の指導の評価項目	変容した幼児の姿
友達	<p>兄弟で過ごすことが多く、他の人とかかわることが少ない。</p> <p>友達と遊ぶ経験が少なく、かわり方が分からない。</p> <p>友達が作った物を壊す。</p> <p>自分の思いが強く、一緒にいる友達を自分の思い通りに動かそうとする。</p> <p>一緒に遊んでいる友達に思いを出せない。</p> <p>自分の思いが伝わらないと泣くことがある。</p> <p>周りの状況や様子が分からず、勝手に行動する。</p> <p>一緒に遊んでいる友達のしていることが分からず、違う遊び方をする。</p>	<p>人(教師、周りの人、同じ場にいる友達など)と一緒にいて楽しいと感じる。</p> <p>友達の思いに気付く。</p> <p>友達の中で、自分の思いを表す。</p> <p>自分がしたいことを一緒に遊んでいる友達に言葉で伝える。</p> <p>友達がしていることが分かり、一緒に遊ぼうとする。</p>	<p>同じ場所に他者がいることを気付かせる。</p> <p>教師が幼児と一緒に動く。</p> <p>友達と一緒にいる楽しさを意識できるようにする。</p> <p>必要な言葉を知らせる。</p> <p>相手の思いを伝える。</p> <p>幼児の気持ちを受け止める。</p> <p>自分の思いの伝え方を知らせる。</p> <p>自分の思いを表したことを認める。</p> <p>自分の思いを受け止めてもらえた嬉しさを共感する。</p> <p>他児の遊びのイメージを知らせる。</p> <p>自分なりのイメージが相手に伝わるようにする。</p> <p>言葉で伝え合う必要性を知らせる。</p>	<p>先生に親しみをもち、一緒に遊ぶことを喜ぶ。(人・1)</p> <p>みんなと一緒に集まってすることを楽しいと感じる。(人・1)</p> <p>気の合う友達が見つかり、一緒に遊ぶ。(人・9)</p> <p>自分の思いを友達に伝え、反応を受け止めて遊びを進めようとする。(言・3)</p> <p>友達の中で安心して自分を出して遊ぶ。(人・9)</p> <p>友達に伝えたいことや、嫌なことを言葉で伝える。(言・5)</p> <p>友達がしている遊びが分かり、一緒に楽しもうとする。(人・5)</p> <p>友達がしていることに興味をもち、自分もしてみようとする。(人・4)</p>

教師の指導の評価

5歳児

	幼児の姿	指導の方向	教師の指導の評価項目	変容した幼児の姿
生活	<p>当番活動や片付けなど自分からしようとしなない。</p> <p>周りの状況に関係なく動こうとする。</p>	<p>遊びや生活に必要なことが分かり自分から取り組む。</p> <p>生活の見通しをもって自分から取り組む。</p> <p>周りの状況に応じて自分で考えて動く。</p>	<p>方法や手順をわかりやすく伝える。</p> <p>教師も当番活動や片付けなどを一緒にする。</p> <p>当番や片付けの大切さを伝える。</p> <p>友達が取り組んでいる様子を伝える。</p> <p>友達同士で誘い合って行えるようにする。</p> <p>自分で取り組んだことを認める。</p> <p>気持ちよさ取り組んだ満足感を共感する。</p> <p>自分のしたことが皆の役にたっていることを知らせる。</p> <p>見通しがもてるよう具体的な物を提示したり、言葉を掛けたりする。</p> <p>幼児が周りの状況に気付くようにする。</p> <p>教師がモデルを示す。</p> <p>友達の思いに気付くようにする。</p> <p>幼児が自分から状況にあった行動ができたことを認める。</p>	<p>幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整える。(健・7)</p> <p>周囲の状況を見て自分で考えて動く。(健・5)</p>
遊び	<p>遊びのイメージをもちにくい。</p> <p>学級全体の活動に、自分なりの目当てをもって取り組もうとしなない。</p>	<p>遊びのイメージをもつ。</p> <p>自分のイメージを実現しようとする。</p> <p>学級や学年の取り組みの中で、自分なりに目当てをもって取り組む。</p>	<p>幼児がイメージをもてるように絵本や写真などを活用する。</p> <p>友達がしていることを言語化する。</p> <p>幼児がイメージを実現できるような具体物の提示をする。</p> <p>幼児がイメージを実現できるような方法を提案する。</p> <p>幼児がイメージを実現しやすい機会を設定する。</p> <p>友達のしている方法を見せる。</p> <p>幼児のイメージやしたいことを確認する。</p> <p>幼児が繰り返して取り組めるように物を用意しておく。</p> <p>幼児が素材に気付くような言葉掛けをする。</p> <p>幼児が前に経験したことを思い出させる。</p> <p>幼児が取り組む目当てを提示する。</p> <p>幼児が友達のしていることを伝え遊び始めるきっかけを作る。</p> <p>教師も一緒にする。</p> <p>個々の技能に応じたやり方を伝える。</p> <p>幼児が自分なりに目当てをもって取り組んだ姿を認める。</p>	<p>遊びに必要な物を自分で作ろうとする。(表・7)</p> <p>見立てたり、なりきったりして遊ぶ。(表・8)</p> <p>自分なりの目当てや目的をもって取り組もうとする。(人・2)</p> <p>自分なりの目当てや目的をもって行動しようとする。(人・2)</p> <p>いろいろな活動に関心を持ち、楽しんで取り組む。(健・4)</p> <p>自分の課題に向かって意欲的に取り組み、達成感を味わうことができる。(人・2)</p>

	幼児の姿	指導の方向	教師の指導の評価項目	変容した幼児の姿
遊び	<p>最後までやり遂げず途中で止める。 自分のしたいことをどのように進めていったらよいか分からない。</p> <p>自分で試したり工夫したりすることが少ない。</p> <p>結果が気になり、自信のないことには取り組もうとしない。</p>	<p>自分のしようと思ったことに最後まで取り組む。 遊びの見通しをもち進めていこうとする。</p> <p>試したり工夫したりして自分のイメージを実現する。</p> <p>結果を気にせず自分から取り組もうとする。</p>	<p>幼児に遊び方を知らせる。 幼児が友達の動きに気付くようにする。 教師が場の整理をする。 遊びが続くように教師が動いたり周囲に働き掛けたりする。 幼児と一緒に遊びの進め方を考える。 教師が必要な物を作って見せ、用具の使い方に気付かせる。 幼児に身の回りの物を遊びに使えることに気付かせる。 幼児に必要な動きや役割を知らせる。 幼児のイメージを具体的に言葉掛けをする。 幼児の動きが広がるきっかけとなる物を出す。 幼児のイメージに合った素材を出す。 教師が動いてみる。 繰り返し試せるような場、時間を保障する。 幼児が試している姿を認める言葉掛けや動きをする。 幼児に応じた動きやすい雰囲気作りや働き掛けをする。 教師が仲のよい友達を誘い、抵抗感をなくす。 興味もてるような言葉掛けをする。 幼児が動き出せるように誘う。 教師の動きから遊び方を知らせる。 できたものを見せ遊び方を知らせる。</p>	<p>自分のイメージや思いを身近なものでかいたりつくったりして表す。(表・7)</p> <p>自分の作ったものを使って遊びを楽しむ。(表・7)</p> <p>自分なりの目当てや目的をもって取り組もうとする。(人・2)</p> <p>役割を決めたり、それらしく動いたりして遊ぶ。(表・8)</p> <p>教師や友達のしていることに興味や関心をもち、遊びに取り入れたり一緒に遊んだりする。(人・1)</p> <p>遊びに必要な物や場を使って遊びを進める。(表・7)</p> <p>身近にある物を組み合わせて使い、考えたり試したりして遊ぶ。(環・7)</p> <p>遊びのイメージを広げながら体を動かして遊ぶ。(健・2)</p> <p>自分なりの表現を繰り返し楽しむ。(表・4)</p>
友達	<p>友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう経験が少ない。</p> <p>友達に自分の思いを出せない。 困ったことを伝えられない。 友達の中で自分の思い</p>	<p>友達と同じ場で遊ぶことを楽しむ。 友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。</p> <p>友達に自分の思いを出す。</p> <p>自分の思いを出しながら一緒に遊びを進める。 友達の中で自信をもって</p>	<p>友達とかがわかるような場を設定する。 周りの友達に働き掛けることで友達とかがわかるきっかけを作る。 友達と遊びを続けられるように言葉を掛ける。 幼児に具体的な目標をもたせる。 幼児が動き出せるように言葉を掛ける。 幼児が動き出せるきっかけを言葉で伝える。 幼児が動けたことを認める、支える。 様々な考えの良さを伝える。 教師が幼児の気持ちを代弁する。</p>	<p>教師や友達のしていることに興味・関心をもち、自分の遊びに取り入れたり一緒に遊んだりする。(人・1)</p> <p>教師や友達に受け止められていることが分かり安心感をもって行動する。(健・1)</p> <p>友達と生活する中で自分のしたいと思うことやしてほしいことをはっきりと言う。(人・5)</p> <p>友達とかがわかる中で、相手の立場や思いを理解して行動しようとする。(人・9)</p>

<p>を出し切れない。 自分の思いを強く出し、 友達の考えを受け入れ ない。</p> <p>友達とイメージを共有 して遊べない。</p> <p>学級全体の中で自分の 気持ちを出して遊べな い。</p> <p>気の合う友達と過ごす ことが多く、友達関係が 広がりにくい。 できそうにないと思う ことを避けてしまう。</p> <p>うまくいかなかったり 負けたりすると気持ち を立て直すのに時間が かかる。</p>	<p>自分の気持ちを表す。 友達の考えを受け入れ、一 緒に遊びを進める。</p> <p>イメージを伝え合って遊 びを楽しむ。</p> <p>学級の中で自分の思いを 出す。</p> <p>いろいろな友達と一緒に 遊ぶ楽しさを感じる。</p> <p>いろいろな活動に自分か ら取り組もうとする。</p> <p>うまくいなくても諦め ずに自分なりに行動でき るようになる。</p>	<p>教師が互いの気持ちが伝わるように橋渡しをしていく。 イメージがわかりやすいように話をしたり環境を整えたりす る。 友達と共通のイメージをもてるような遊びのきっかけを投げ 掛ける。 遊びの目的をはっきりさせる。 イメージが伝わるよう橋渡しをする。 イメージが具体的になるような言葉を教師が代弁する。 イメージをもちやすい素材を提示する。</p> <p>学級全体の中で幼児が動けるように教師が途中まで一緒に動 く。 幼児が動けたことを認める、支える。</p> <p>友達と一緒に遊ぶきっかけをつくる。(言葉掛け、遊具の提示) グループで行う活動や集団遊びを取り入れる。 いろいろな友達と遊びを媒介にかかわれるようにする。 幼児が場、物、イメージなどを共有できるようにする。 友達と一緒に遊んだことを意識できるようにする。 友達の様子や動き掛けを言葉に出し、意識化する。 自分なりにがんばったことを認める。 友達の励ましを伝える。 友達がんばっている姿を伝えたり認めたりする。</p>	<p>教師や友達のしていることに興味・関心を持ち、自分の遊 びに取り入れたたり一緒に遊んだりする。(人・1)</p> <p>進んで自分の考えを相手にわかるように伝える。(人・5) 相手の考えを聞き、相手のことも考えて解決していこうと する。(人・5) 友達と一緒に遊んだり活動したりする。(健・1) 自分なりの目当てや目的をもって取り組もうとする。 (人・2) 学年(学級)の友達とのつながりを感じ安定する。 (健・1) 友達や教師に受け入れられる中で自分を出す。(健・1) 友達と一緒に多様な経験をし、活動する楽しさや面白さを 味わう。(健・4) 友達と一緒にいろいろな遊びを楽しむ中で体を動して遊ぶ 楽しさを味わう。(健・2)</p> <p>友達と一緒にであれば途中でくじけずにやり遂げようとする。 (人・7)</p>
---	---	--	---

まとめと今後の課題

1．意欲的に遊びに取り組む幼児を育てるための教師の指導とその評価について

幼児の実態のとらえ、ねらいの設定、教師の指導が適切に行われるための評価の方法を工夫し、指導の改善をすることで、幼児が意欲的に遊びに取り組むだろうという研究の仮説に基づいて研究を進めてきた。その結果、幼児の姿 教師の願い 教師の指導 幼児の変容という一連の流れ（p.4 参照）を繰り返していくことがよりよい指導につながり、重要だということが分かった。また、**教師の指導の評価項目**を使ったことにより、幼児の実態のとらえ、ねらいの設定の仕方がよりの確になり、幼児が意欲的に遊びに取り組むようになり、仮説が実証された。

教師の指導の評価について分かったこと

- ・**教師の指導の評価項目**を作成することにより、自分の指導を客観的に振り返ることができ、指導の幅が広がった。
- ・幼児の育ちを評価するだけでなく、**教師の指導の評価**をし、指導の方法を工夫して、今後の指導に生かすことが大切である。

指導の改善のために必要なこと

- ・教師の指導については、幼児の姿から、事前により具体的な指導（具体的な手だて）を考えることが大切である。
- ・実際の指導では、教師が事前に考えた具体的な指導だけでなく、幼児の動きから判断して行った指導がある。どちらの指導においても、教師は常に自分の指導を振り返って評価し、具体的な指導を意識化していくことが必要である。
- ・自分の指導を振り返り、幼児の姿に変容がみられた指導（有効な指導）とそうでなかった指導とを見極めることが大切である。有効性が認められなかった指導については、実態やねらいのとらえが合っていたのかを考え、見直すことが必要である。

2．今後の課題

今回の研究の**教師の指導の評価項目**は、各自の持ち寄った事例の中から抽出したものであり、標準的なものとはいえない。そこで、更に不足している部分を加え、見直しながら改善していく。そして、**教師の指導の評価項目**を今後の指導に活用していく。

また、意欲的に遊びに取り組む幼児を育てるために、実態を的確に把握する力を養い、指導の幅を広げる努力を積み重ねるとともに、常に自分の指導を評価し改善につなげて、よりよい指導のできる教師を目指していきたい。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 勝田印刷株式会社